

長泉町下水道経営戦略

～経費回収率の向上にむけたロードマップ～

○経営戦略見直しの趣旨・経緯

「経営戦略」とは、公営企業が、将来にわたって安定的に事業を継続していくため、中長期的な投資・財政計画を中心とした経営の基本計画です。

下水道事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。収入面では、下水道整備により処理区域内人口が増加するものの下水道使用料の設定が低いことにより、従来どおりでは収入の伸び悩みが見込まれます。支出面では、下水道施設の老朽化に対する改築・更新需要の増加、未普及解消事業の推進などが大きな負担となります。

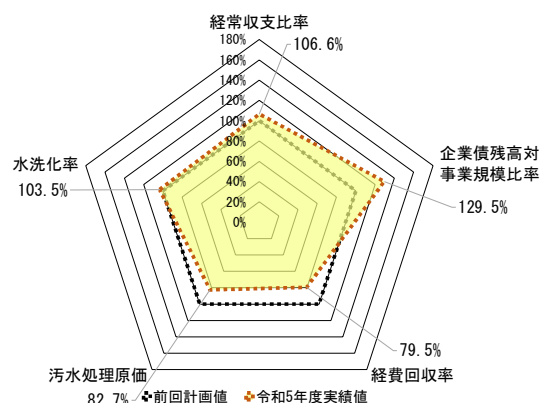
以上のことから、将来にわたり公営企業として事業を継続していくため、令和元年度に策定した経営戦略以降の社会環境の変化に対応するため、経営戦略の見直しを行うものです。

○前回経営戦略の評価

令和元年度の経営戦略では、「経常収支比率」、「企業債残高対事業規模比率」、「経費回収率」、「污水处理原価」、「水洗化率」において、中間目標年次である令和5年度における目標値を設定しています。今回経営戦略では、令和5年度末における実績値に基づき達成状況の評価を行い、達成していない項目については見直しを行います。

令和5年度における前回設定値と実績値を比較したところ、「経費回収率」、「污水处理原価」は未達成となりました。今回は未達成となった

2項目のうち、污水处理原価については、事前保全や不明水調査の実施などにより低減を図ります。経費回収率については、設定値の見直しと改善方法を検討し、健全で安定した継続的な事業経営と経営基盤の強化を図るための計画を策定します。



※前回下水道経営戦略の計画値を100%（実績値/目標値）とした場合の達成率を示しています。100%を超えた場合に目標達成となります。

項目【単位】	基準値	目指すべき方向性	前回設定値	令和5年度実績値	令和5年度実績値（%表記）	達成状況
経常収支比率【%】	100	↑	101	107.7	106.6%	達成
企業債残高対事業規模比率【%】	指標なし	↓	922	712	129.5%	達成
経費回収率【%】	100	↑	73.7	58.6	79.5%	未達成
污水处理原価【円／m ³ 】	指標なし	↓	124	150	82.7%	未達成
水洗化率【%】	100	↑	95.0	98.3	103.5%	達成

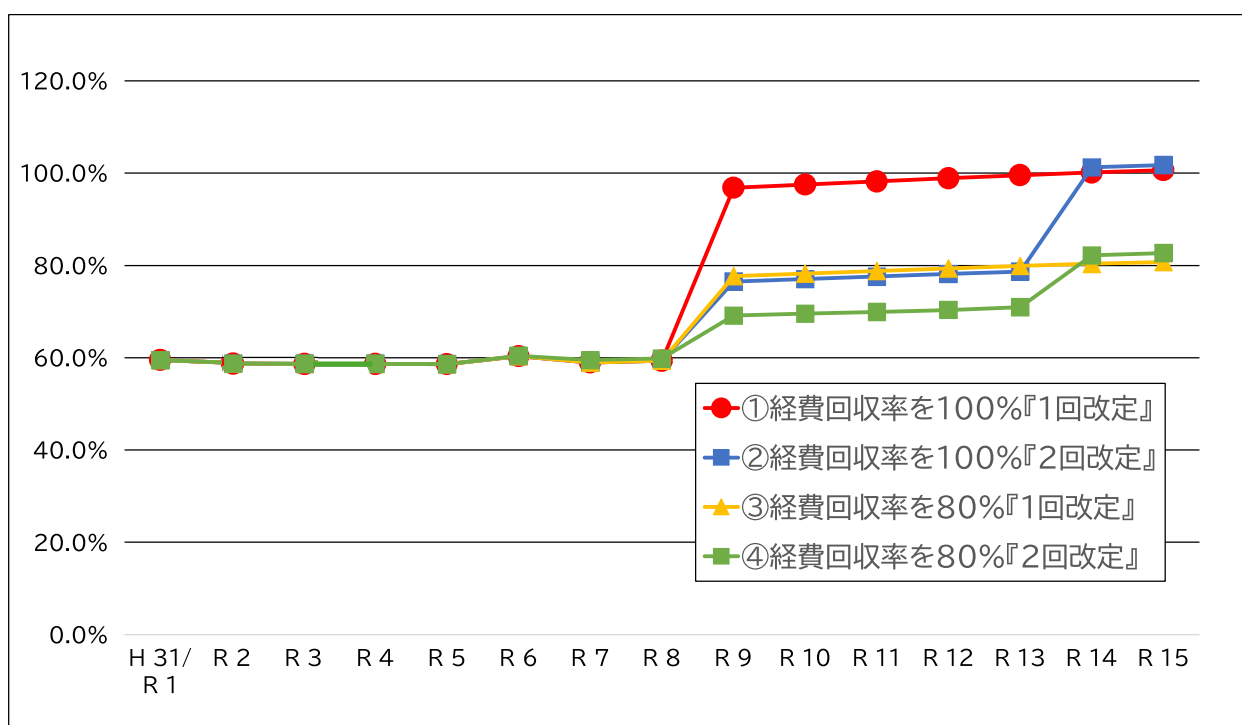
ちょうどいいが いちばんいい

○経費回収率向上に向けた検討

令和 5 年度末時点の下水道事業における経費回収率は、60%に満たない状況となっており、今回の経営戦略の見直しで、社会資本整備総合交付金の重点配分の要件となる経費回収率 80%以上を計画期間内に目指します。

以上を踏まえて、経費回収率向上に向け、下記の 4 パターンで下水道使用料改定について検討を行いました。

パターン名	数値目標	改定回数	使用料単価改定率
①	100%	1 回	1.62 倍
②	100%	2 回	1.28 倍×2
③	80%	1 回	1.30 倍
④	80%	2 回	1.15 倍×2



○経費回収率の目標設定

適切な事業運営と公費負担のあり方を実現するためには、下水道使用料で賄うべき経費全額を下水道使用料のみで賄う収支構造（＝経費回収率 100%）とすることが必要です。

しかし、物価上昇による維持管理費の増大の影響は大きく、経費回収率 100%の目標値とした場合、住民負担の極端な増加や過度の経費削減など、計画に無理が生じかねません。そこで今回の経営戦略では、経費回収率 80%を期間内に達成することを目標とします。

項目	数値目標	達成年
経費回収率	80%以上	令和 14 年度 (2032 年)



○経費回収率向上に向けたロードマップ

計画期間内に2度の下水道使用料の改定を行い、健全で安定した継続的な事業経営と経営基盤の強化を図っていきます。

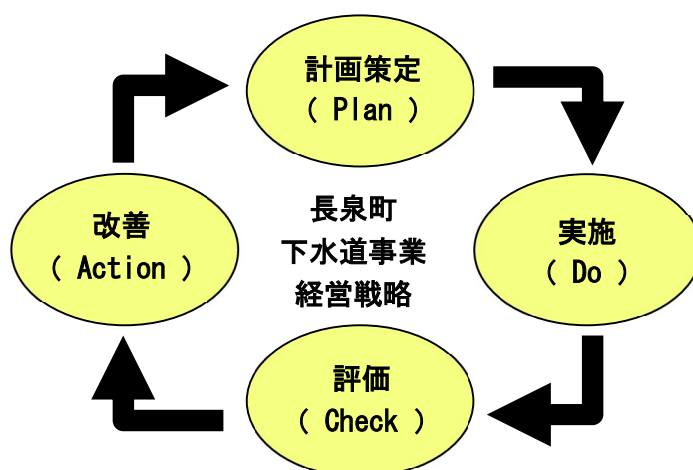
項 目	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
本経営戦略計画期間										
経営戦略見直し	●					●				
下水道審議会		●	●				●	●		
使用料の改定				●					●	

項 目	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
使用料収入(百万円)	280	298	300	348	350	352	355	357	413	415
経費回収率(%)	60.3	59.0	59.4	68.8	69.2	69.7	70.2	70.7	81.8	82.2

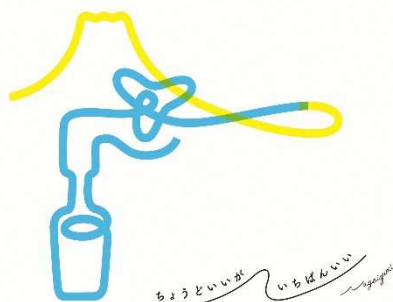
○経営戦略の事後検証・更新

見直しにあたっては、経営戦略の達成状況を評価し、「投資・財政計画」やこれを構成する投資試算、財源試算と実績との乖離及びその原因を分析し、その結果を反映させるため、計画策定（Plan）－実施（Do）－進捗・評価（Check）－見直し・改善（Action）のPDCAサイクルで行います。

ただし、社会情勢の影響等により計画と実績の乖離が著しい場合は、経営のあり方、事業手法の見直しについて改めて検討を行い、必要がある場合は経営戦略の計画見直しを図ります。



GOOD WATER



AYUTSUBO-no-TAKI

